FTM BAG SYSTEM

失敗する屋上緑化と、

失敗しない屋上緑化がある。

株式会社 緑化計画研究所 / 常緑キリンソウ普及協会®



なぜ屋上緑化は

「屋上緑化なんてどれを選んで
そして一度導入してしまえば、「メンテナンス
でも実は屋上緑化はそんな簡単に
「なんとなく」、「大丈夫だろう」という思い

枯れる



屋上緑化の植物として知られる「セダム」を使用した「薄層型の屋上緑化」は、日本ではメンテナンスフリー的イメージで急速に拡大しました。しかし、外来種のセダムには日本の**高温多湿がかなり厳しい環境となる**ため、適切なメンテナンスが必須です。**放置していると数年後には枯れてしまい**、緑化の役目を果たさなくなります。

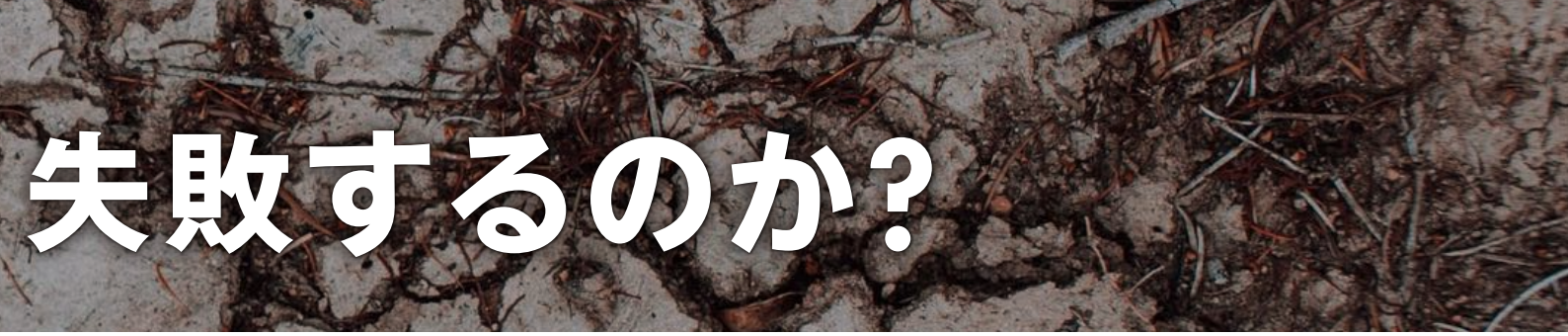


雑草繁茂



春～秋にかけて温かいシーズンには雑草が増えてきます。屋上緑化でも同様で、風や鳥によって運ばれるオヒシバ、スズメノカタビラなどを始めとした**雑草の種が、芽生えて生育することがよくあります**。そうして生えた雑草を取り除かないと、**雑草に覆われた状態になり、肝心な屋上緑化の植物が死滅する**可能性があります。





失敗するのか?

も一緒」と思っていませんか？
をしなくてもちゃんと生い茂るだろう」、とも。
考えていいものではないのです。
込みは後々の失敗へつながってしまいます。

土壌流出



昨今の日本では異常気象が頻繁に起きるようになっています。それに伴う激しい雨は屋上緑化にとって厳しい環境です。屋上緑化軽量システムは荷重を60kg/㎡以下とするために、そのような状況下でも3～5cm程度の土壌厚しかなく、**土壌流出するケースが増えています**。当然土がなくなっては、植物が生育することはできません。



飛散



土壌流出と同じように、異常気象では激しい風も吹きます。従来のトレー式は板状で硬い素材のため風の影響を受けやすく、**少しでも浮き上がると一気に強風に飛ばされてしまいます**。そのため施工する際のしっかりとした固定はもとより、飛散防止ネットで養生する必要もあることから、その後の**防水改修を困難にするデメリット**も発生します。



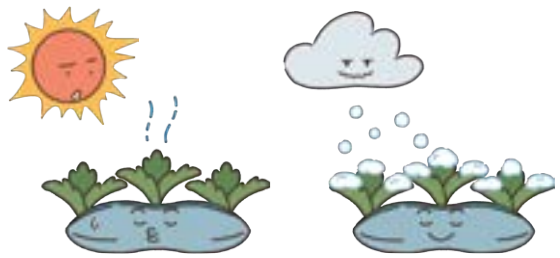
失敗しない、

こうした失敗を未然に防ぐ屋上緑化
今までの経験やノウハウ、そして現場の声を反映して開発
あらゆる状況を考慮し、さまざまな実証実験
多くの現場でこの屋上緑化が認め

枯れにくい



暑さ、寒さ、多湿に強い「常緑キリンソウ®」を採用。耐環境性が高く、日本の気候に適応可能、**枯れに強い植物**なので、めまぐるしく変化する屋上の環境にうってつけと言えるでしょう。特に乾燥に非常に強く、**通年で緑を保てる**ため、冬季に屋上緑化が寂しくならず、今まで緑化が難しかった部分もオアシスに変えていきます。



生えにくい



従来方式は表面に土が出ているため、雑草の侵入は防げませんでしたが、「常緑キリンソウ袋方式®」は防草シートで作られた袋の中に土と常緑キリンソウ®が入っているので、**雑草が侵入しづらく、生えにくいシステム**です。また、ファスナーで仕切られているので、成長して太くなる茎にぴったりフィットして、**常に雑草の種をシャットアウト**します。



在来工法 vs
常緑キリンソウ袋方式®

屋上緑化革命®

があったとしたらどうでしょう？
された、失敗しない屋上緑化「常緑キリンソウ袋方式®」は
を行ってリリースされた画期的なシステム。
られ、大きく広がっています。

流出しない



雑草と同様に、表面に土が出ている従来方式は豪雨にも弱く、常に土壌流出の危険に晒されています。「常緑キリンソウ袋方式®」は土が袋の中に入っているから、**どんな豪雨でも土壌流出はゼロ**。成長に合わせてぴったりフィットするファスナーは、外からの侵入を防ぐだけでなく、**袋の中からの流出もしっかりと防ぐ**のです。



在来工法 vs
常緑キリンソウ袋方式®

風につよい



板状で硬く強風に飛ばされやすい従来のトレー式に対し、「常緑キリンソウ袋方式®」は**袋が柔らかく変形して強風を受け流します**。しかも風をわずかながら通すので、**浮力が発生しにくく飛びにくい構造**になっています。もちろん、より安全を目指して、飛散防止ネットもオプションで用意しているので、万全の飛散対策が可能です。



在来工法 vs
常緑キリンソウ袋方式®



10年後の屋上緑化

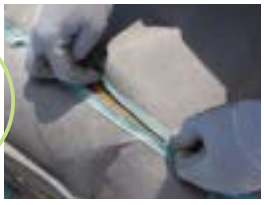
「常緑キリンソウ袋方式®」は「失敗しない屋上緑化」
現場の声を反映しているからこそ、設置労力の

ファスナー式で設置が簡単



これまで屋上緑化の施工は専門業者にしかできないシステムが多数でしたが、「常緑キリンソウ袋方式®」はとても簡単。**常緑キリンソウ®の苗を、土が入った袋のファスナーを開けて植え、ファスナーを閉じるだけ**。この袋を**並べるだけで緑化が完成する**ため、面倒な現場での加工は一切必要ありません。

ファスナーを開く



▶ 苗を植える



▶ ファスナーを閉じる



薄層緑化で生育OK



キリンソウは海岸の岩場に生育する植物で、わずかな土壌でもしっかり根を張り、強風、豪雨に耐えてきました。そのキリンソウをベースに開発した常緑キリンソウ®だから、**3～5cm程度の厚さの土壌でも健全に生育**します。

袋基本サイズ	50×50cm
重 量	湿潤状態最大13kg/枚（52kg/㎡）

15×100cmの長方形タイプもあり、ハトメ付きやサイズのオーダーも可能です。



を考えたシステム

が大きな特徴ですが、それだけではありません。
軽減や将来の改修を考えて作られているのです。

ローメンテナンスで散水不要



11月末～12月にかけて古い葉が枯れて新芽と入れ替わるので特に剪定の必要がなく、**1年を通してメンテナンスはほぼ不要**。また、灌水設備を必要としないほど保水機能が高く、**自然の雨水のみで生育する**（壁面緑化を除く）ため、散水不要で水害防止やヒートアイランド防止効果や都市型洪水防止の効果をもたらします。

従来方式	常緑キリンソウ
	
灌水設備が必要	**自然の雨水のみで生育**

防水改修が容易



一般的な屋上緑化システムでは「構成する部品が多い」、「飛散防止のための強固な固定」、「運搬時の土壌飛散の懸念」など、防水改修に多大な労力を要します。
一方、常緑キリンソウ袋方式®は**「袋を置くだけの構成」、「固定せずとも風速45m/sまで耐えられる」、「運搬時の土壌飛散ゼロ」**のため、防水改修も容易に行えます。



株式会社 緑化計画研究所 / 常緑キリンソウ普及協会®

https://kirinsou.jp/

〒232-0072 神奈川県横浜市南区永田東2-27-17

TEL.045-326-6587　FAX.045-326-6588